

令和元年 10 月 29 日
茨城県東京渉外局県産品販売促進チーム

「市場・流通関係者と産地・生産者の交流会」が開催されました。

10 月 29 日（火）、東天紅上野店において、東京中央卸売市場茨城県人会（会長 柏武彦）主催による「市場・流通関係者と産地・生産者の交流会」が、大井川知事、佐野全農茨城県本部運営委員会会長を来賓にお迎えし、約 400 名の参加者のもと盛大に開催されました。

開会にあたり柏会長からは「台風 15 号・19 号により茨城県内でも多くの方が被害に遭われており、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。茨城県の青果物については、東京都中央卸売市場における取引額が、（昨年 567 億円、10.0%のシェアを占め）15 年連続で日本一になるなど、茨城県は首都圏における食料供給基地として大変重要な役割を担っております。我々は、今後とも皆様と一体となり、茨城の産地を盛り上げていきたいと考えておりますので、より一層、市場流通関係者とパイプを強く、太くしていただくようお願いいたします。」との挨拶がありました。

来賓の大井川知事からは「茨城県の新しいブランド豚「常陸の輝き」と新しい品種の梨「恵水」の 2 つを茨城県のブランドとしてプレイアップしてどれだけできるか努力を続けていきたいと思っておりますので、是非、市場関係者の皆様にもご指導ご支援をお願いします。」との挨拶をいただきました。

本年も、各 JA、全農のご協力のもと、会場には、茨城県産農産物を乗せた「宝船」と本県産花きが飾られ、多くの参加者がこの豪華な「宝船」を背景に記念撮影をしておりました。

会場に用意された料理には、アールスメロン・ハクサイ・常陸牛・ローズポーク・常陸の輝きなど多くの本県産食材がふんだんに使われており、参加者は美味しさに舌鼓を打っておりました。

また、各 JA からの特産品や主催・共催団体からのプレゼント品の抽選会を行うなど市場関係者と産地・生産者は親交を深め、盛会のうちに交流会は幕を閉じました。

